

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第2区分

【発行日】令和2年10月8日(2020.10.8)

【公開番号】特開2019-87664(P2019-87664A)

【公開日】令和1年6月6日(2019.6.6)

【年通号数】公開・登録公報2019-021

【出願番号】特願2017-215580(P2017-215580)

【国際特許分類】

H 01 F	1/147	(2006.01)
C 22 C	38/00	(2006.01)
H 01 F	1/20	(2006.01)
H 01 F	1/22	(2006.01)
H 01 F	1/33	(2006.01)
H 01 F	1/34	(2006.01)
B 22 F	1/00	(2006.01)
B 22 F	3/00	(2006.01)
B 22 F	3/24	(2006.01)
B 22 F	9/20	(2006.01)

【F I】

H 01 F	1/147	
C 22 C	38/00	3 0 3 S
H 01 F	1/20	
H 01 F	1/22	
H 01 F	1/33	
H 01 F	1/34	1 4 0
B 22 F	1/00	Y
B 22 F	3/00	E
B 22 F	3/00	F
B 22 F	3/24	B
B 22 F	9/20	A

【手続補正書】

【提出日】令和2年8月26日(2020.8.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 8 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 8 9】

また、この磁性材料粉体を磁性材料の局所的なTi含有量及び不均化の存在や度合を知るのに適しているFE-SEM/EDX法によって、ある粉末粒子(粉末粒子1)を観察した(倍率は1万倍とした。)。その結果、図2に示したように、本磁性材料の各相におけるTiの含有量(図の数値は、各相におけるTi含有量で、各相のTi、CoとFeの総和に対するTiの原子比の値を百分率で表したものである)は、0.15原子%以上0.45原子%以下と大きく不均化して分布していることがわかった。なお、図1(B)には、一つのbcc-(FM,Ti)相と見られる領域の中にも10nmオーダーの間隔で湾曲した曲線状の無数の結晶境界が観察された。よって、bcc-(FM,Ti)相の領域の中にも、Ti含有量で区別できる相、例えば、Ti含有量が0.15原子%のbcc-(FM,Ti)相に対してTi含有量が、その相よりも1.5倍以上105倍以下の範

囲内の3.2倍である0.45原子%のbcc-(FM, Ti)相が存在していること、即ち、bcc-(FM, Ti)相に関して、第1相以外に第2相に相当する相も存在していることが、この結果からも明らかになった。